令和7年度　群馬県立農林大学校評価システムシート　　★は本年度新規の取組

目指す学校像	群馬県農林業の多様な担い手育成
重点方針	1　質の高い教育の実行 2　実績の上がる学生募集の実行 3　実績の上がる進路指導の実行 4　県民の期待に応えられる研修の実行

番号	重点方針	現　　状	評価項目	取組内容	左記取組内容の補足
1	質の高い教育の実行	本校は群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立高等教育機関である。 農林部には2つの学科、6のコースがある。農業経営学科は、野菜コース、花き・果樹コース、酪農肉牛コース、社会人コース、農林業ビジネス学科は農と食のビジネスコース、森林コースからなる。定員は100名である。 1　実習等を通じた実践学習を教育の基本としている。 2　課題解決型の研究に取り組み、主体的に学ぶ力を育んでいる。 3　人間力を身につけるために、1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。 4　農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成し、経営力を身につけている。 5　国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 6　平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」を設置した。地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。 7　令和5年3月に公表された「群馬県みどりの食料システム基本計画」に基づき、持続可能な農業（特に有機栽培）の取組を強化し、有機栽培に取り組む生産者を増加させるため社会人コース「有機農業専攻」を令和6年度に新設した。	(1)学生にとって分かりやすい授業の実施	**①授業評価に基づく授業方法の改善** ◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上　80%以上 **②よりよい授業のための職員の資質向上** ◎新任職員向け研修等の実施　2回 ◎指導教授による授業観察・助言　1回 ★農業高校等の授業見学・情報収集 1回 **③DXを活用した、効率的でより効果が高い指導方法の推進** ★農業高校等の授業見学・情報収集 1回（再掲）	・前期に専門科目、後期に共通専門科目のアンケートを行い、評価を行う。 ・評価が低い項目は、授業実態等についての聞き取りや学生の意見を反映させるなどの指導を行う。 ・令和6年度の満足度評価は、専門科目77%、共通専門科目92%であった。 ・授業の進め方等の研修を行う。（新任職員6名） ・前期に指導教授による授業観察を実施し、アドバイスを行う。（新任職員6名） ★農業高校等の授業を見学・情報収集し、授業にいかす。 ★令和8年度に大型モニターを各教室に設置するため、予算要求する。
			(2)学生がやる気と自信の持てる教育	**①主体的・対話的で深い学びの実践** ◎電子図書館の活用推進　1回 ◎アクティブラーニング型授業　随時 ◎課題研究活動　1人1課題 ◎農水省「みどり戦略学生ﾁｬﾚﾝｼﾞ」参加　1グループ以上 **②実習等におけるリスク管理意識向上** ◎校内における農作業事故　0件 **(職員向け)** ◎ヒヤリハット事例の共有化　随時 ◎刈払機安全研修　1回 ◎農作業安全指導者研修　3名 **(学生向け)** ◎刈払機の安全衛生教育（森林）　1回 ◎伐木等の特別教育（森林）　1回 ◎農業機械研修　3回 **③課題研究・意見発表等の取組** ◎全国大会出場　1名以上 ◎代表課題発表前指導　2回 ◎関東大会前発表指導　2回 ◎全国大会前発表指導　2回 **④国際水準のGAPを実践** ◎野菜コースのGAP維持審査　1回 ◎農林大GAPの内部審査　1回 **⑤有機農業の担い手育成** ◎「有機農業論」、「循環型農業論」「おおむね満足」以上　80%以上 ◎社会人コース「おおむね満足」以上　80%以上 ◎社会人コースの就農率　100%	・「キャリアデザイン」の講義で電子図書館の利用方法に関する実践的な講義を行う。 ・2年生全員が課題研究に取り組む。 ・各コースで「みどり戦略学生チャレンジ」に参加するよう誘導する。令和6年度は、2コース、個人2名が参加し、関東ブロックみどりチャレンジ賞を受賞した。 ・事故事例だけでなく、ヒヤリハット事例が発生した場合、発生状況や原因、対策等を共有する。 【課題研究】 ・計画検討会（2月～7月） ・中間検討会（9月～11月） ・校内課題研究発表会（11月） 代表課題発表前指導 ・代表課題研究発表会（12月） 関東大会前発表指 ・関東ブロック課題研究発表会（1月） 全国大会前発表指導 ・全国発表会・意見発表会（2月） 【意見発表】 ・キャリアデザインⅠの講義で作文指導 ・夏休みに1人1課題の作文を作成し、これをもとに意見発表指導 ※その他、課題研究に準じて指導 ・令和6年度全国農業大学校等プロジェクト発表会　特別賞「日本農業新聞賞」受賞 ・野菜コースは、国際水準であるASIAGAPの維持審査を受験する。 ・その他のコースは、コース毎に独自基準である農林大GAPを設け、取組計画に基づき、内部審査を実施する。 令和6年度実績は次のとおり ・「おおむね満足」以上は、「循環型農業論」86%、「有機農業論」76%であった。 ・社会人コースに関する評価では、「おおむね満足」以上は、カリキュラム全般が63%、農家研修が100%、実習が50%、就農支援が57%であった。 ・社会人コースの就農率100%（自営就農7名、研修後就農予定3名） ★実習、就農支援カリキュラムの充実を図った。

番号	重点方針	現　　状	評価項目	取組内容	左記取組内容の補足
				⑥スマート農林業の実践 ◎スマート農林業の機械・施設等の活用　各コース	・イノベーションファーム（複合環境制御技術を活用した施設）、直進アシストトラクタ、ドローン、Web上でデータを一括管理する営農管理システム、酪農場のIoT機器などの導入による省力化や高品質化
				⑦六次産業化、実践販売力の強化 ◎特別講演会　1回 ★粉末化プロジェクトの実行 ◎販売学習　7回 ◎有機農産物取扱店での販売	・六次産業化に関する特別講演会の開催 ★粉末化機器の導入と、それを活用した農産物の加工技術の習得 ・販売学習 ①花と野菜の即売会開催（5月） ②イオン販売会開催（6月、11月、12月） ③ぐんま青空マルシェ参加（5月、10月、12月） ・有機農産物取扱店での販売（6～3月）
				⑧デジタル人材の育成 ★民間企業と連携したデータサイエンス関連授業（生成AI等）　1回	
				⑨プレゼンテーション能力の向上 ◎キャリアデザインⅠによる講義　1年生 ◎学年集会時（1分間スピーチ）　3回	・キャリアデザインⅠの講義において、自己PR演習を行う。 ・学年集会（年3回）時に、各コース代表者に1分間スピーチを行う。
				⑩学業優秀者の表彰 ◎1年次、2年次、2年間の優秀者表彰	
			(3)社会生活の基本を身につける	**①寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む教育の実**践 ◎1年次　全員 ◎2年次　原則希望者	
				②あいさつ運動の実施 ◎登校時における玄関前での声かけ	
				③メンタルヘルスの実施 ◎入校後面談（5月）　1年生全員 ◎スクールカウンセラーの設置　2回/月	
				④マナーアップの促進 ◎マナーアップ講座の開催　1回	・1年生対象に、市内紳士服専門店担当者による講座の開催
				⑤生活態度優秀者等の表彰 ◎1年生　各コース1名	・寮の管理人である舎監推薦及びコース推薦により決定し、3月に表彰する。
			(4)地域、外部機関との連携	**①地域との連携、地域貢献等** ◎箕輪城・芝桜公園の美化　4回 ◎地元小学校との交流　1回 ◎地元マルシェ等への出店　3回 ◎学校給食への出荷　4品目 ◎子ども食堂との連携による食育　随時	・箕輪城周辺の環境整備（花壇苗の生産・提供）、箕輪城まつりへの参加 ・小学生対象のプランター植込指導等 ・ぐんま青空マルシェ参加（再掲） ・箕郷学校給食センターへの出荷（キュウリ、キャベツ、ナス、トマト） ・子ども食堂への食材提供（令和6年度39回）
				②外部機関との連携 ◎高崎健康福祉大学との共同研究 ◎東日本調理師専門学校	・学生が取り組む課題研究について、高崎健康福祉大学と共同研究を実施 ・東日本調理師専門学校と連携した授業を行う。
				③イノベーションファームの活用 ◎視察等受け入れ　10回 ◎農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及　3品目	・視察等の受け入れによる理解促進。令和6年度は、7回で延べ79名を受け入れた。 ・学生の課題研究として、農業技術センターと連携した試験を実施
			(5)教育環境の充実	**①ICTを生かした新たな授業方法の展開** ◎高性能林業機械のシミュレーター操作 ★牛向けウェアラブルデバイスからのデータ活用	★飼養する乳牛の情報をインターネットによってリアルタイムで確認できる機器を整備し、活用する。
				②最新作業機械による学習の実践 ★自走式飼料収穫調製機械での実習	★汎用型微細断飼料収穫機等による畜産現場に即した専門実習を展開
				③快適な学習環境の整備 ★現場教室等にエアコンを設置	
				④キャンパスの環境美化 ◎環境整備の実施　8回	・全校学生による定期的な校内の環境整備

番号	重点方針	現　　状	評価項目	取組内容	左記取組内容の補足
2	実績の上がる学生募集の実行	1　少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより令和4年度までは8割程度を確保していた。しかし、令和5年度は6割程度に減少し農　業や農林大の魅力を広く知らせる必要がある。 　定員100名に対し、平成31年度86名、令和2年度83名、令和3年度78人、令和4年度82名、令和5年度59名、令和6年度59名、令和7年度70名で推移している。 2　近年、非農家出身者が増加しており、令和7年度入校生は80%を占めている。なお、女子学生の割合は、令和7年度は26.%(令和6年度27%)であった。 3　入校生の約6割が農業高校出身者(令和7年度入校生:69%)であり、農業高校との連携とともに普通高校へのPRも積極的に行っている。	(1)入校生の確保	**①学生募集の強化** ◎入校者数　　70 → 80名以上 ◎学生募集プロジェクト会議　　2回 ◎高校生・保護者向けPR資料配布 58校 ◎新農業人フェア等参加　　2回 ◎高校進路説明会への参加　　20回 **②学生参加型オープンキャンパス開催** ◎参加者数　　147 → 150名以上 ◎参加者の満足度評価 　「おおむね満足」以上　95%以上 **③情報発信** ◎HPの更新回数　　100回以上 ◎動画配信　　10回 ◎ラジオ放送　　1回 ◎上毛新聞(県内高校生全員)　1回 ◎学校案内　　3，500部 ◎ポスター　　300部 **④全寮制に対する不安解消** ◎寮生活の紹介　　1回 ◎農業高校へOBOG等の派遣　1校	・令和7年度入校者70名(定員100名)。令和8年度入校者数80名以上を目指す。 ・都内や県内で開催される就農フェアに参加してPRする。 ・オープンキャンパスの開催(7月24日、8月2日、8月30日)。 ★社会人コースのオープンキャンパスを開催 ・令和6年度オープンキャンパス加者数147名、参加者の満足度評価「 おおむね満足」以上95%。 ・HP掲載による情報発信(令和6年度更新回数145回) ・上毛新聞「みんなの進路」に投稿(タブロイド紙、WEB) ・学校案内等に、二次元コードを使い、HPに誘導する。 ★情報発信の効果を検証(1年生へのアンケート等)し、効果的なPRを行う。 ★オープンキャンパスの個別相談では、寮や学校生活の相談について、学生の運営委員に同席してもらう。
			(2)農業高校等との連携強化	**①県内高校への学生募集訪問** ◎高校訪問　　県内全校 ◎校長・農林部長による訪問　10校 ◎管理職・担当職員による訪問　48校 **②連携会議等を通じた情報交換** 　農業高校の担任等へのPR強化 ◎高校教員見学会　　1回 ◎連携会議　　1回 **③学校見学会の積極的な受入れ** ◎受入れ　　随時 **④職員派遣講義による高・大連携の強化** ◎職員による出前講義　　3回	・担当教授が県内全高校を訪問 ・農業系高校(10校)、進学実績のある高校(48校)を訪問し、学校案内、募集要項及びオープンキャンパスチラシを配布する。 ・高等学校教員を対象にした校内見学会を開催する。 ・農業高校と県行政による担い手育成に関する連携会議を開催する。 ・農業高校等による見学会を積極的に受入れ、農林大の魅力をPRする。 ・「群馬県が作った品種たち」、「最前線の病虫害対策」等の出前講義を実施
3	実績の上がる進路指導の実行	1　キャリアデザインⅠ・Ⅱ　(共通専門) 　1年次は多様な講義・演習を通じて社会で働くための基礎的な知識を習得する。2年次は就農・就職等の希望する進路に合わせた班別講義・演習等を通じて進路決定のためのスキルアップを図る。 **就農班:就農計画作成、資金計画** **農業共済制度、県就農支援対策** **農業実践者等の講義、就農相談等** **就職班:就職活動の心得、面接・グループ討議演習、プレゼンテーション演習等** **※令和6年度進路(卒業生61名)の内訳** **就農(雇用就農含む):19名(31%)** **JA等農林業関係団体:10名(16%)** **民間企業:21名(34%)** **公務員:8名(13%)** **進　学:2名(3%)** **※就農率:(森林コース除く)31%、** **うち雇用就農率47%** **林業就業率:17%** 2　先進農林家等体験学習 　1年次の3月～2年次の9月の期間、26日間の体験学習を通じて、就農・就職(林業)のマッチングをねらう。 3　就職試験受験報告書の作成 4　就職試験直前模擬面接の実施 　希望する学生に対し、校長等が面接官となり面接指導等を行う。 5　編入学ガイダンス	(1年生) (1)進路希望の把握と進路指導体制の強化	**①進路方向の決定と進路別指導** ◎三者面談　　1回 ◎進路希望調査　　2回 **②進路ガイダンスによる指導** ◎編入学指導　　随時 ◎進路ガイダンス　　1回 **③就農・就業の促進** ◎学内企業説明会　　1回 ◎進路内定者報告会　　1回 ★3年後の離職率の調査　　1回 ★農業人材紹介企業との連携　1回 **④就農、就業(林業)への支援** ◎先進地等農林家体験学習 　2年生・社会人コース　全員修了 　1年生　　体験学習先の決定 ◎体験学習発表会　　各コース1回 **⑤資金等の活用** ◎就農準備資金・経営開始資金説明会 　　1回 ◎緑の青年就業準備給付金説明会 　　1回	・12月に三者面談、12月と2月に進路希望調査を行う。 ・県内外の企業十数社を招き、説明会を開催(7月16日)する。 ・2年生の進路内定者の報告会を開催(12月予定)することにより、1年生の進路方向の決定を促す。 ★3年後の離職率を調査し、次年度の学内企業説明会の企業選定等にいかす。 ★農業の人材紹介を行う企業と連携することにより、求められる人材を把握するとともに、学生に幅広い選択肢を与える。
			(2年生) (2)きめ細やかな進路別指導	**①就農者、雇用就農者、就業者への支援** ◎進路決定率　　98 → 100% ◎就農率　　31 → 40% ◎学内企業説明会(再掲)　　1回 ◎農業業経営士等との連携　　2回 ◎就活セミナー　　3回 ◎面接等演習　　4回 **②編入学希望者への支援** ◎編入学指導　　随時	・令和6年度進路決定率98%、就農率31% ・農業経営士や若手農業者による講義を実施 ・面接試験対策として、各コース職員及び幹部による面接練習を実施(随時) ・キャリアデザインⅡの授業において、面接指導(集団面接演習、個別面接演習) ・編入学希望者に応募書類作成、面接指導を実施。令和6年度は、編入学2名。

番号	重点方針	現　　状	評価項目	取組内容	左記取組内容の補足
			(3)専門資格取得教育の強化	**①専門資格の取得（合格率）** ◎大型特殊自動車免許（農耕車限定） 100% ◎けん引免許（農耕車限定）　100% ◎日本農業技術検定2級　30%以上 ◎危険物取扱者（乙4類）　30%以上 ◎毒物劇物取扱者　30%以上 ◎狩猟免許（わな猟）　100% ◎簿記能力検定3級　60%以上 ◎土壌医検定3級　50%以上 ◎有機JAS講習　100%	令和6年度実績（合格率） ・大型特殊自動車免許（農耕車限定） 受験者数172名　100% ・けん引免許（農耕車限定） 受験者数33名　100% ・日本農業技術検定2級　30% 受験者81名中24名合格 ・危険物取扱者（乙4類）　33% 受験者6名中2名合格 ・毒物劇物取扱者　100% 受験者5名全員合格 ・簿記能力検定3級　54% 受験者24名中13名合格 ★土壌医検定3級は、共通専門科目「土壌肥料学」の講義内容を、取得に向けた内容に変更して対応する。
4	**県民の期待に応えられる研修の実行**	1　ぐんま農業実践学校（R7年度定員：99名） 新たに農業を始める人などを対象に、野菜栽培の基本技術等の習得を支援する。 2　農業機械研修 免許取得研修（大型トラクター基礎・けん引研修）、トラクター作業機研修、農業機械安全利用研修、農業機械整備研修、運転技能研修（共催）を実施。延べ900名以上の学生や農業者が受講予定。 3「農と食のふれあい講座」（公開講座） 一般県民を対象に、農林業への理解や親しみを持ってもらうため、農産加工、野菜、花、果樹の栽培技術や農業機械の取り扱い、農産加工に関する講座を計8回開催予定。 有機農業の学習として全国的にも注目されている『菌ちゃん農法』による高畝づくり講座を計3回開催予定。	**(1)多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営**	**①研修生の確保やニーズに対応した授業内容の充実** ◎研修生の定員確保　100% ◎修了時の就農予定率 野菜専門技術コース　100% 実践学校全体（いちごコース除く） 90% ◎修了3年後の農業従事率 R4年度修了生の農業従事率　80% ◎有機農業アドバイザーの招聘 ◎電子メールによる連絡体制の整備	令和6年度実績 ・研修生の定員確保　105%（入校者104名/定員99名） ・修了時アンケートで「すでに就農、数年以内に就農、未定だが就農するつもりである」の割合 野菜専門技術コース　100% 実践学校全体（いちごコース除く）　97% ・修了3年後の農業従事率 R3年度修了生の農業従事率　64% ・有機農業アドバイザー（くらぶち草の会、佐藤氏）の招聘により、授業内容の充実を図る。 ・連絡体制を整備し、就農や営農に役立つ情報提供、研修生同士の交流促進を行う。（個人情報に配慮し、情報漏洩を防止する）
			(2)県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	**①農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得（合格率）** ◎大型特殊自動車免許（農耕車限定） （再掲）　100% ◎けん引免許（農耕車限定） （再掲）　100% **②スマート農業機械を用いた研修** ◎スマート農業機械研修 開催回数／受講者数　15回／240名 **③農作業安全研修等の実施** ◎校内における農作業事故（再掲）　0件 ◎農業機械安全利用研修 開催回数／受講者数　35回／430名	・令和6年度実績は前述 ・直進アシストトラクター、ラジコン草刈り機等の紹介や走行体験を実施 ・令和6年度スマート農業機械研修の実績 開催回数／受講者数　15回／195名 ・令和6年度農作業事故　1件（怪我無し） ・農業機械安全利用研修の実績 開催回数／受講者数 R6年度　30回／323名 R5年度　29回／386名 R4年度　22回／319名
			(3)農林業に対する理解を深める公開講座の開催	**①職員の専門性を生かした講座の実施** ◎公開講座の満足度評価 「おおむね満足」以上　90%以上 ◎「菌ちゃん農法」高畝づくり講座　3回	・令和6年度公開講座の満足度評価 「おおむね満足」以上　96% ・梅加工、刈払機操作、秋冬野菜づくり、キュウリ・ナスの管理、小型管理機操作、果樹整枝・剪定、春夏野菜づくり、花き栽培の講座を実施。受講者数145名 ・「菌ちゃん農法」の講座について、第1回を3月に実施済み。第2回を8月27日、第3回を.11月中下旬に開催予定。